

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

生徒たちの言う「むっちゃ良い先生」は、 生徒たちにとって本当に良い先生！？



「親切、丁寧、わかるまで指導します」

他塾のチラシを見るとこれらの文言をよく目にします。確かに、親切・丁寧・わかるまで指導することはとても大切なのですが、他塾の言う親切って、本当に 生徒にとっての親切 な指導なのでしょうか。

今から10年以上前、「やっぱり育脳寺子屋の指導方針は間違っていないなあ」と考えさせられる出来事が本部教室でありました。

今はその本部教室にはアルバイトの講師はいませんが、当時は大学生のアルバイトも授業に入っていました。その中のA君は有名大学に通う大学生。非常に教育熱心で、生徒達のが大好きで、そんな生徒たちのために常に一生懸命！

若くて、イケメンで、熱心に指導してくれるので、当然生徒達にも人気の先生でした。

ある日の小学生の授業で、A先生は算数の「分数」の授業をしていました。

「先生、わから～ん」「先生、教えて教えて～」「先生こっちも！お願いお願い～」

「なにになに、ああ、これはね・・・」

その日も大人気のA先生は子どもたちのためにいつも通り一生懸命！親切、丁寧にわかるまで一から十まで解説しながら授業を進めます。慕われている先生なので子どもたちもしっかり先生の授業を聞いています。授業終了後は、

「やっぱり先生の授業はよく分かるわ～！教えるの上手いし、しゃべってて楽しいし、A先生ってほんまにいい先生やな～!(^^)！」

と子どもたちは口々に話していました。A先生も手ごたえ十分だったようで、

「今日も子どもたちはよく授業を聞いてくれました。みんな良くわかったと言ってくれていたの
で、次のテストはバッチリ結果を出してくれますよ！」と笑顔でした。

そして楽しみにしていたテストの結果は・・・。

なんと散々なものだったのです。A先生はショックを隠しきれません。

「あれだけ長い時間教えて、あれだけ^{うなず}頷きながら『わかった、わかった』と言ってくれていた
のに、なぜなんですか!？」

それを聞いた塾長は、

「ちょっと教えすぎと違う?あれだけ一から十までこっちが一方的にしゃべったら、生徒達は
その時はわかった気になるけど、自分で苦労して答えにたどり着いていないから、解き方・考え方
なんてすぐ忘れるよ。次は僕が指導してみるね」

ということで、塾長が「答えを教えない指導」で授業したところ、次回のテストでは生徒達みんな
ながきっちり結果を出したのです。

生徒たちにとって「本当にいい先生」って、どんな先生?

先述のA先生は生徒達の評判はピカ一の「いい先生」です。当然、生徒達のために一生懸命で教
育熱心なので塾にとってもいい先生であることに変わりはないのですが、「指導方法」の面では、
考え直してもらわなければいけない部分がありました。

私達も基本的には「親切、丁寧、わかるまで」は大切だと思っていますし、そのつもりで指導し
ています。しかし、私達の考える「親切・丁寧・わかるまで」は、他塾や一般的な感覚とは少し違
うように感じます。

育脳寺子屋は先述のように「答えを教えない指導」を理念としています。あくまで考え方、解き
方は教えるけど、それを使って答えにたどり着くのは生徒本人の仕事です。そのくり返しが、今学
んでいることを定着させ、学んだことが蓄積され、実力になり、後に結果へと結びつくのです。

しかし「答えを教えない指導」は先生のペースで一方的に進む授業とは違い、生徒自身が自分で
頭をひねり、あれこれ工夫しながら、自ら答えにたどり着く必要があるので、時間がかかる上に、
大変に感じるのです。(でもこの方法でないと、本当の力は身につけません)

つまり、私達は私達なりの「親切、丁寧、わかるまで」の指導方法を行っているのですが、生徒
たちの考える「親切、丁寧、わかるまで」とは少し違うのです。

そこで、最近では親御さんにはこのようにお伝えするようにしました。

「育脳寺子屋の指導は『不親切・不自由・不便』です。でもそのような環境が生徒自身を成長させるので、結果的にはこの『不親切・不自由・不便』は、生徒にとって本当は『親切』だと思うのですけどね。」

私達が育てたい「これからの時代を生きていける人」とは

AIが進化し、誰も経験したことのない時代を生きる今の子ども達。そんな子どもたちに我々は何を教えるべきなのでしょう。

よくおわकारの通り、今までの様な「学歴」はもはや何の武器にもなりません。

当然学歴もあって、自ら考える力もある人には関係のない話なのですが、進学のための勉強をし、学歴は手に入れたけど、勉強したこと（経験したこと）以外には自ら考え対応できないという人は、社会で活躍するのは難しい時代です。

確かに、今巷でよく耳にする「英語」や「プログラミング」のスキルがあれば、近い将来の社会では必要とされると思います。

しかし、時代は信じられないスピードで変化し続けています。

つまり、今必要とされているスキルと、少し先の未来に必要とされるスキルは違っている可能性が高いのです。

そんな変化の著しい社会で必要とされるためには、時代と同じスピードで変化（成長）し続けられる人でなければなりません。

私達の考える、これからの時代を生きていける人、それを一言で言うならば

『自ら学び続け、成長を続けられる人』

これからの時代は「今何ができる」「今どんなスキル」がある、ということ以上に、「時代の変化に合わせて、その人自身がどれだけ変わっていけるか（成長できるか）」ということを求められているのだと感じます。

社会人一年目のスタートの段階で、持ち合わせているスキルには差があるかもしれませんが、その後は40年近く社会人として働くわけですから（もう今の時代は50年ですね）。

そう考えると社会人になった時点での差なんてないに等しいのです。大切なのは、常に自ら学び続け、時代とともに変化し続けられる「伸びしろ」なのです。

面接官はそこを意識して、学生たちを見ています。

昔も今も変わらない原理

このNEWSを書いている、ある言葉をふと思いだしました。
「種の起源」で有名な、英国の自然科学者チャールズ・ダーウィンの言葉です。

『生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。

それは、変化に最もよく適応したものである』

時代が変わっても、物事の原理は変わらないようです。

私達も塾ですので、試験で良い点が取れるよう日々教科指導をしています。しかし目の前のテストで1回の100点をとることよりも、今は不完全でも将来社会人になってから100点を取り続けられる人を育てよう、という思いで日々指導にあたっています。

長期的にみて本当に役立つ、必要な力を育てるのは一朝一夕ではできませんし、なかなか「成果」というものが目に見えにくいのです。しかし、そこを目指さなければ意味がありません。これからも私達は、表面的な「親切、丁寧、わかるまで」ではない、『生徒たちにとって本当に親切』な指導を続けていきます。

べんきょう なぜ勉強をしないといけないの？

だれ いちど かん ぎもん おも べんきょう
誰もが一度は感じたことのある疑問だと思いますが、あなたはなぜ勉強を
しないといけないのだと思いますか？

せいちょう つづ ひと ひつよう 成長し続ける人でないと、必要とされない

べんきょう てすと しんがく おとな
勉強はテストや進学のためにするのではなく、みなさんが大人になり、
しゃかいじん とき かつやく
社会人になった時に活躍できるためにしているのです。

いま しゃかい すびーど へんか つづ しゃかい
今、社会はものすごいスピードで変化し続けています。そんな社会で
かつやく ため しゃかいじん とき しゃかい へんか すびーど
活躍する為には、みなさんが社会人になった時、社会の変化のスピード
おな はや すびーど じぶん せいちょう
と同じくらい早いスピードで、自分も成長しないといけないのです。

しょうらい せいちょう くんれん いま べんきょう とお わ
将来そんな成長をするための訓練として、今は勉強を通して「**分からな
いことを自ら学ぶ**」練習をしているのです。

しゃかい で がっこう じゆく おし せんせい
社会に出たら、学校や塾のようにゆっくりじっくり教えてくれる先生は
いません。自分で課題を見つけ、自分で考え、自分でその課題を解決する
ちから ひつよう
力が必要とされるのです。

まっく せんせい こた おし じぶん
MACの先生が「すぐ答えを教えてもらおうとしない！じっくり自分で
かんが い りゆう
考えなさい〜！」と言うのは、そういった理由があるのですよ。



いじん めいげん
偉人の名言

い のこ しゅ もっと つよ もっと ちてき
「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なもの
でもない。それは、変化に最もよく適応したものである」

チャーるず だーういん いざりす しぜんかがくしゃ
チャールズ・ダーウィン ～イギリスの自然科学者～

じぶん へや めだ は よ かけ
自分の部屋の自立つところに貼って、読み返すようにしましょう。